

煤孫地区地域農業マスタープラン

市町村名	集落/地域名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(9回目)	更新年月(10回目)	更新年月(11回目)	更新年月(12回目)
北上市	煤孫地区	平成24年12月	平成25年2月	平成29年2月	平成29年9月	平成30年2月	平成31年2月

1. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている / 担い手はいるが十分ではない / 担い手がない

2. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
担い手に集積・集約化する	○	・北上市機械化農業公社を中心に農地の集積を図っていく。 ・農地中間管理機構が実績をあげてきた後、分散錯圖の解消に向け活動していく。
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

3. 2についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
農地をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に自由に記載]		

4. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者のあり方)		
取組事項	対応	コメント
複 合 化	○	＜現状＞ 当該地区は、個人経営体と農業法人、営農組織とが連携し、農地の利用集積が進められています。水稻、大豆、小麦など土地利用型農業により、生産性の高い地域農業が展開されています。また、転作田を利用して、アスパラガスや菌床しいたけなどの園芸作物に取り組む複合経営体も多く、農地の有効活用が図られています。 ＜今後の取組＞ ①水稻については、JAの限定米栽培体系による米づくり、大豆と麦については、単収増加・高品質生産の技術の普及拡大、飼料用米については直播栽培を導入して、農地の利用集積を進めながら、土地利用型農業の生産力の向上を図ります。 ②アスパラガスの生産については、畜産農家との連携を強め堆肥活用による生産の拡大を図るとともに、新規栽培者の掘り起こし等の取組によって産地化を目指します。また、そばの生産を拡大し、市内の飲食店等への供給を推進します。 ③菌床しいたけなどの園芸品目を導入する複合経営体がいることから、仲間づくり等の取組を通じて、地区全体の農業経営の安定化を図ります。 ④上記①～③の取組を担保するため、個人経営体の世代交代や新規就農者の確保・育成の取組を推進します。 ⑤集落営農等の設立により、集落で農地を守っていくことを検討していきます。 ⑥農地の水について条件が悪いところがあるため、水路の整備等を地区で検討していきます。
6 次 産 業 化		
高 付 加 価 値 化	○	
新 規 就 農 の 促 進	○	
そ の 他 []		